

意見	対応方針
小学校区を中心とした拠点形成を考えたほうが良いのではないか。(伊藤委員)	上位計画である総合振興計画や都市計画マスタープランにおいて、小学校区を基本とした地域コミュニティを重視しており、本計画でも小学校区単位を考慮しつつも、複数の徒歩圏がまとまった範囲を単位として暮らしの拠点を設置する。
埼玉病院周辺は暮らしの拠点ではなく、もう一つレベルを上げて地域拠点として位置付け、地域の暮らしのための拠点ではなく、医療・教育・研究等のための拠点としたほうが良いのではないか。(伊藤委員)	「暮らしの拠点」は、暮らしを支えるための素地があり、かつプロジェクトや地域の象徴的な施設がある場所を選定している。そのため、「暮らし」+「プロジェクトや象徴的な施設」という表現で各暮らしの拠点の位置づけが分かるように修正する。また、埼玉病院は、地域住民のための暮らしを支える施設ではなく、市内外の多くの人が利用する象徴的な施設であるため、「プロジェクトや象徴的な施設」と分かるような表現に修正する。
埼玉病院周辺は理化学研究所や税務大学校なども含めて、学術の拠点として位置付けた方が良いのではないか。(杉尾委員)	
埼玉病院や理化学研究所等は都市計画マスタープランには拠点として位置付けられておらず、都市計画マスタープランを踏まえて立地適正化計画があるので、その枠組みから外れてしまうと、都市計画マスタープランの扱いまで変えざるを得なくなるのであまりよくないのではないか。(大沢委員長)	
埼玉病院は、現在の我が国の医療制度から考えると、その地域にあるからと言って、その地域の人々が気楽に利用できる施設ではない。国の制度として、「初期診療は医院や診療所などのかかりつけ医で行い、高度・専門医療は病院(200床以上)で行う」ことを推進しており、地域の開業医等を受診した紹介状を持った方が受診する病院が埼玉病院である。埼玉病院は和光市の地域財というよりは、この朝霞地区、板橋、練馬の共通財という考え方が必要である。 上記から埼玉病院を暮らしの拠点と考えるのはやや困難と思われる。生活の拠点にはアクセスしやすい初期診療医療機関がある方がよく、埼玉病院については、むしろ雇用を創出する産業ととらえ、そこで労働する人々が地域経済に及ぼす影響等の方から考えていくべきではないか。 また、理化学研究所も同じで、市民が利用する施設ではない。年に一回一般公開することで市民が科学への理解を深める程度であり和光市にとっての、さらにはその地域にとっての学術の拠点の役割は全くなく、日本のあるいは世界の学術の拠点という理解をすべき。ここも労働する人々が地域経済に及ぼす影響を考えるべきではないか。司法研修所については、司法研修生は入れ替わり立ち替わり和光市に来るが、納税するわけではなく地域サービスをただ乗りしている状態とも言える。いずれにしても、ランドマークになる大きめの施設を生活拠点化する考えはやや的外れと思われる。 一方で、実際の衣食住の中心として小学校を中心とした生活拠点との考えは、子どもの教育や環境による成長発達への影響も鑑み同意できる部分と考える。(奈良委員)	
暮らしの拠点の名称はイメージしやすいように大和・白子・新倉にすることも検討してほしい。(杉尾委員)	暮らしの拠点は地域住民の生活利便性を維持する拠点であるため、より利用者が多く集まる中心的な施設名称を利用する。
暮らしの拠点の名称は、学校の名称をそのまま使うほうが良いと思う。(伊藤委員)	
新倉北地域センターはふた掛け構造であり、その建物の安全性や今後の発展性を踏まえて、暮らしの拠点としてふさわしいかどうか。(関口委員)	担当課に確認したところ、占用の更新の際に、安全性の確認を行っており、今後も継続予定。